

- 「ふじさわジェンダー平等プラン2030～藤沢市男女共同参画計画～」を策定しました
- なぜ、女性が「おもて」に出にくいのかを考えてみた
- 映画紹介「パパは奮闘中!」
- インフォメーション
- 編集後記

かがやけ地球

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



藤 沢 市

～共に生き、共に創ろう、未来につなぐ、ジェンダー平等のまち「ふじさわ」～をめざして

「ふじさわジェンダー平等プラン2030 ～藤沢市男女共同参画計画～」を策定しました



“令和”という新しい時代を迎え、藤沢市では、2021年度から2030年度の向こう10年間を目標年次とする、「ふじさわジェンダー平等プラン2030～藤沢市男女共同参画計画～」を策定しました。
新たなプランでは、SDGs(持続可能な開発目標)における目標の一つである「ジェンダー平等の実現」に向け、多様な生き方や考え方を認め合うまちづくり、誰もが生きやすい社会の実現をめざしています。

5 ジェンダー平等を実現しよう



市では、これまで「ふじさわ男女共同参画プラン2020」を基に、社会のあらゆる場面で男女が対等に参画し、生涯を通じてそれぞれが自立した豊かな生活と自己実現を図ることができるようさまざまな施策を進めてきました。

しかし、性別による固定的な役割分担意識や、それに基づく社会慣習・社会制度は依然として根深く残るとともに、セクシュアルマイノリティ(性的少数者)といった多様な性への尊重と理解、あるいは、増加するDV・虐待の防止等、困難を抱えた人たちが安心して暮らせる社会づくりが求められています。

本計画ではこうした課題や、各種法令の制定及び改正、新型コロナウイルス感染症をはじめとした社会情勢等を踏まえ、“共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち(インクルーシブ藤沢)”の視点に基づき、策定しました。

2030年度を目標年次として、市民、NPO、ボランティア、大学、企業など多様な主体と協働して施策を推進していきます。

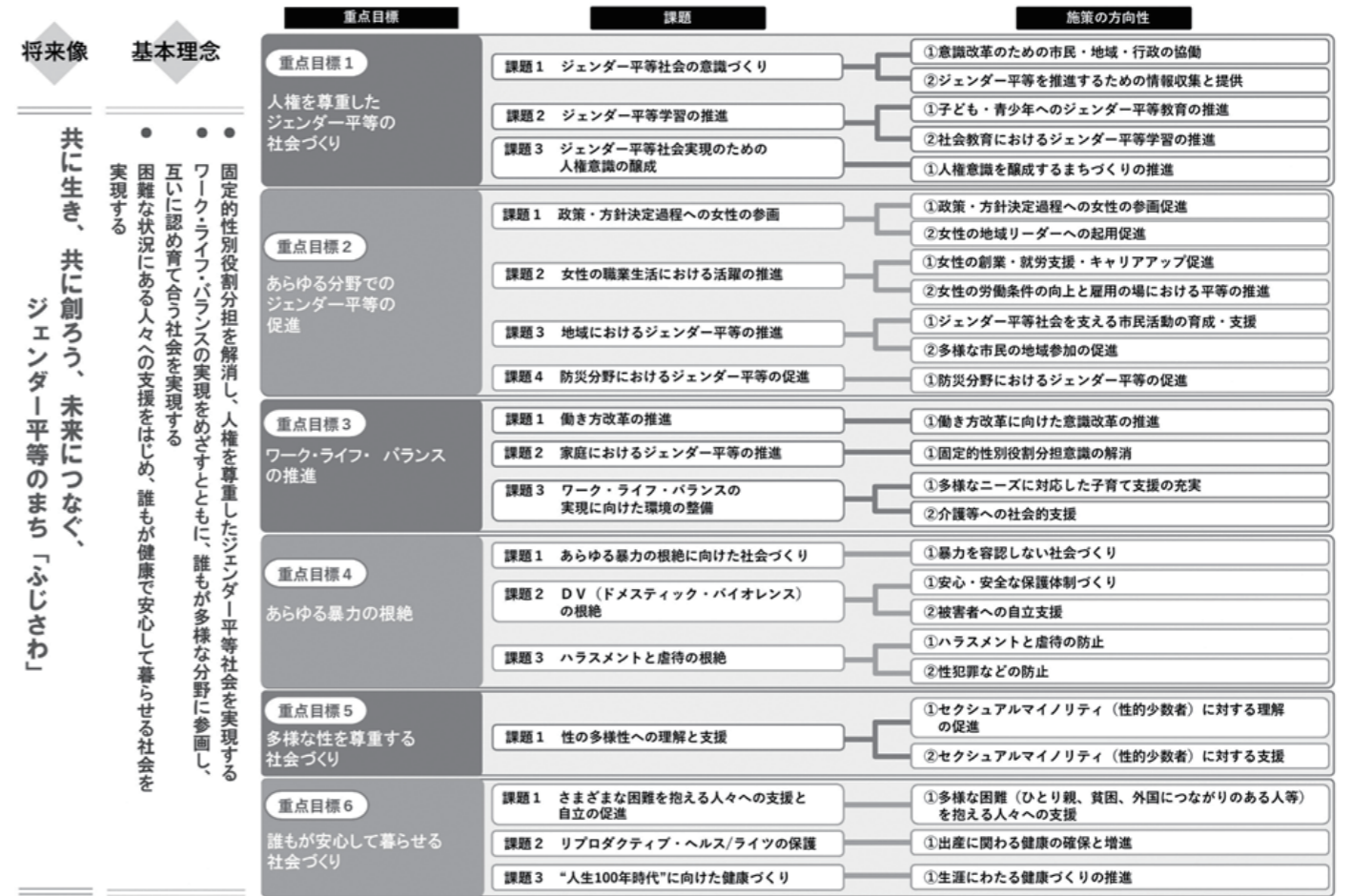
「ジェンダー」とは

生まれつきの生物学的性別に対し、社会通念や慣習などに基づき、社会的・文化的に形成された性別のことを「ジェンダー」といいます。
そして、「ジェンダー平等」とは、誰もが性別に関わらず、人権が守られ、平等に機会を与えられることをいいます。

次世代に向けて、多様な生き方や考え方を認め合うまちづくりをさらに進め、「男女」に限らず、誰もが生きやすい社会の実現に向けためざまちの姿を示すものとして、計画の名称を「ふじさわジェンダー平等プラン2030～藤沢市男女共同参画計画～」としました。



ふじさわジェンダー平等プラン2030 ～藤沢市男女共同参画計画～ 体系図



市民編集員の視点 ①

今回の変化で一番大きいのは「重点目標5:多様な性を尊重する社会づくり」だと思います。

「ふじさわ男女共同参画プラン2020」での性の尊重とは男女が平等で互いを尊重し、対等な関係を築くことが目標でしたが、2030では男女以外の性も含まれています。2010年と2021年を比較すると社会全体のジェンダーに対する考えが大幅に変わっていると私は感じました。変化した要因としていくつか例を挙げたいと思います。

まずはパートナーシップ宣誓制度についてです。藤沢市でもこの4月から開始されました。この制度によって、同性・異性を問わず、パートナーシップにある二人が宣誓することができます。法的拘束力はありませんが、セ

クシュアルマイノリティの方々が生きやすい社会になる一歩だと思います。他の要因としてはSNSの発達により意見を発信しやすくなったことです。私も実際トランスジェンダーの方が配信している動画を見たことがあるのですが、当事者の方からの話を聞くことができるようになり多様な性への考え方が広まったと思います。

全体的に見て感じたことは2020では男女ということばが多用されていましたが、今回は多くの場面でジェンダーと書かれていることです。女性は男性と比べると社会進出ができていない傾向がありますが、そのことはセクシュアルマイノリティにもあてはまるため今回このように表記を変更したことはジェンダー平等をすすめる重要なきっかけになると思います。

(佐野 記)

市民編集員の視点 ②

今回のプラン策定の背景には、SDGs(持続可能な開発目標)を推進するための取組の一つとして政府が掲げる「あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現」や、市がめざまちづくりのコンセプトの一つである“共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち(インクルーシブ藤沢)”を実現するのに求められる、多様性と包摂性のある社会への共感といったものがあります。これらは、誰でも互いにその人権を尊重し、性別にとらわれることなく充分

にその個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会(ジェンダー平等社会)の理念に基づいています。

プランには、ジェンダー平等を実現するために、重点目標と目標達成のための課題・施策の方向性が示されています。行政による情報発信・教育の推進・環境整備などはもとより、私たちが生活をおして担えることも多くあり、理解を深めていくだけで、ジェンダー平等社会を実現する一助となることもできそうです。

(鈴木 記)



1 “根回し”の場

関係者全員が就業時間中に集まったの議論が難しく、終業後に根回しの場を持つことがままある。この根回しは終業後で飲食を伴うということもあり、女性が参加しにくかったり、排除されてしまうことが多い。

その根回しの場で調整された議論をベースにして進む会議では、その場にはいない女性がリーダーなど務められず、リーダーでなくてもすでに決まった方向性に沿わない発言で迷惑がられたり、あるいははじめから発言を遠慮してしまうことも課題だと考える。

コロナ禍において、会議の方法もいろいろと変化している中、もちろん今では多くの場面で“打ち合わせは極力定時間内で”と思っているだろうが、それが「社会のスタンダード」となるよう変える必要がある。

各部署の幹部が日中に集まりにくかったり、日中は本音を話しにくかったりという面はあるとしても、定時に幹部が集まるための工夫や協力、日頃から率直な意見交換ができる環境を整えることで、組織としての力量となり、従業員の伸びる機会にもなる。男女ともにリーダーはそういう工夫の中で育つのではないか。

2 夜遅くの営業活動

多くの女性にとって夜遅くの営業活動が現実に困難なのはいうまでもないが、そのような営業活動も主に売り手と買い手との関係によるので、双方共通の強い改善意識や社会全体としての共通認識が必要だろう。

この場合“福祉の充実を図れば女性も活動出来るではないか”とするのではなく、男女に限らず、すべての人の健康や、家庭生活、あるいは仕事等への影響を考え、夜遅くの営業活動を減らすことが大切なのではないかと感じる。

もちろん、コロナ禍で厳しい状況にある飲食店の経営では、時短営業といった深刻な問題もあるが、社会全体として、こうした「夜遅くまで」という習慣についても、今後さまざまな視点から再考できればよいと思う。

“テーマも相手も容易でなくお互い何とか打ち解けなければならない”という局面で筆者も夜遅くまでの対応を体験したことがあるが、本当に必要だったかどうか、今では疑問が残る。

3 “女だてらに”

女性の活動や発言に対し男性からも女性からも“女だてらに”の見方があるとも聞かすが、さまざまな領域で女性の実績をあげ、培ってきたものは大きく、それを誰もが分かるよう客観的に表し、固定的役割分担の解消に繋がられないだろうか。

そのような過程を経て着実に成果が出てくれば、“女だてら”という表現は陳腐化し、福祉の充実や女性がおもてに出ることへの社会的モチベーションも高まるのではないか。

これらの問題の改善は、これまでの社会をすべて否定し、新たな考えを生み出すのではなく、これまでに生み出されてきた良い面を見失うことなく活かすことで相乗効果を得られるのではないか。

例えば事業や高い技術力などの経緯、実績、現状の確認を通じ、それらを土台に、男女を問わず多くの人材がおもてに出て活躍する社会になることを期待する。

(前田 記)



『パパは奮闘中!』

発売・販売元：ポニーキャニオン

(C)2018 Iota Production / LFP-Les Films Pelléas / RTBF /
Auvergne-Rhône-Alpes Cinéma

映画 紹介

『パパは 奮闘中!』

ある日突然妻が失踪した。これまで家庭を顧みなかったわけではない。家族を愛し、家族のために必死に働き続けている。でもなぜこうなったか、夫にはわからない。

夫であるオリヴィエは職場のチームリーダーとして難しい立場にある。過剰な効率化を強いられ、残業・解雇の綱渡り。職場環境の改善を求め労働組合活動にも参加するが、簡単に解雇されてしまう不安の中で従業員の関心は組合活動などではない。

妻ローラはなぜ失踪してしまったのか。時間も余裕もないオリヴィエにわかるはずなどないのだ。だからローラはいなくなった。

コメディタッチのイクメン映画を思わせる邦題からは想像もできない内容だった。労使・家族・労働・子育て・格差・ジェンダー・ハラスメント。オリヴィエにとってはどれも当たり前のことであって、「問題」などではない。妻の失踪という衝撃がなければヒリヒリとした空気さえ、ごくありふれた日常の一部だっただろう。

主人公の張りつめた心から生じる、職場に家庭にうっすらと漂いつづけるフラストレーションがリアル。とても「奮闘中!」とは思えない。

助けて、のひと言が口にできなくなるのはつらい。共感力に欠けるオリヴィエ、共感しすぎるローラ。どちらも助けを求められずに孤独になっていったのだろうか。

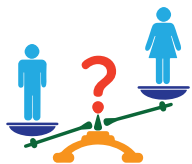
エンディングで、オリヴィエが子どもたちとする「ある事」から彼の思いが伝わる気がした。居丈高だった彼自身の父親の呪縛から自分を解放して、家族とともに生きたいという願いが。

「民主主義は悔しい思いをする人が少ない。」と、オリヴィエが子どもにつぶやく場面がある。『パパは奮闘中』を観たとき、あなたはこのセリフに何を思うだろう？

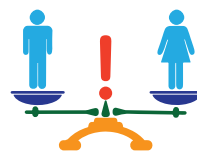
(鈴木 記)



インフォメーション



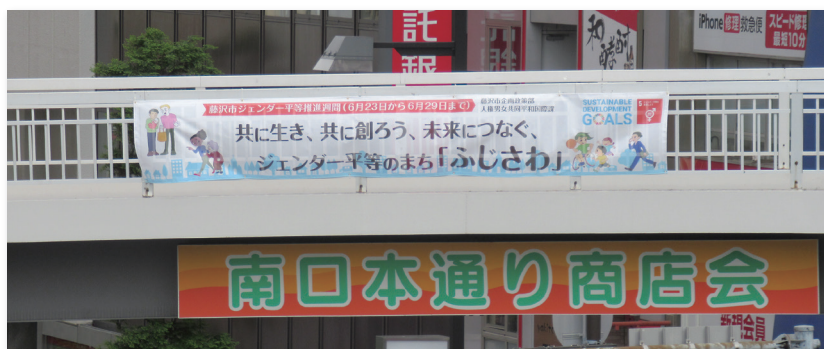
6月23日から29日までの1週間は



「藤沢市ジェンダー平等推進週間」です。

国が定める男女共同参画週間（6/23～6/29）の期間を、藤沢市では「藤沢市ジェンダー平等推進週間」として、ジェンダー平等や男女共同参画について、横断幕の掲出や市役所本庁舎1階ラウンジでのパネル展などを実施します。

誰もが性別に関わらず、学校で、職場で、家庭で、地域で、それぞれの個性と能力を発揮できる「ジェンダー平等社会」を実現するためには、みなさん一人ひとりの取組が必要です。この機会に身近なことからジェンダー平等について考えてみませんか？



▲ 横断幕（藤沢駅南口ペDESTリアンデッキに掲出）



▲ 内閣府 男女共同参画週間ポスター ▲

編集後記

- ・“手伝う”から一歩踏み込んで、やり方違いで迷惑がられたり喜ばれたりの家事、
少しだけ“分担”に近づいたかも……。 (前田)
- ・129号から新たに編集員として加入させていただきました。よろしくお願ひ致します。 (佐野)
- ・A | 相手のしりとりで、スマホに言葉を聞くという状況で……。 (鈴木)



かがやけ地球は、市民の編集員さんと
協力し、年2回発行しています。

編集スタッフ 鈴木 悠子・山口 千鶴子
前田 英孝・佐野 夏央子



ご意見・ご感想・今後扱って欲しいテーマなどをお待ちしております！

発行／2021年6月 藤沢市企画政策部人権男女共同平和国際課

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1 TEL. 0466-50-3501(直通) FAX. 0466-50-8436

URL : <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/jinkendanjyo/>

E-mail : fj-jinkendanjyo@city.fujisawa.lg.jp

お問い合わせ先